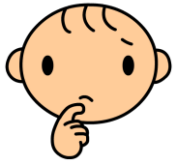
5 書字の支援

よくある質問



- □ 鉛筆を持つ手に力が入って書きにくそう。紙も動いたり破れたりします。①②
- □ 筆圧が弱くて読みづらい字になってしまいます。自分で書いた字が読めなくて困っています。①③
- □ 書くのにとても時間がかかって、授業が思うように進みません。①⑤
- □ 漢字の形がうまくとれず、バラバラな字になってしまいます。④

ヒント① 書字の支援の考え方

体や力のコントロールの難しさや、書くことに時間がかかってしまうことがよく見られる困難で、書字にかかる負担や効率の悪さをどう軽減するかが支援の中心になります。

しかし、書字の困難の核心は、実は「書きにくい」ことではなく、それによって、学習で大切にしたい知識や思考力、表現力が身に付きにくくなったり、学習意欲を損ねてしまったりすることです。書字は学習の手段の一つととらえ、他の手段を上手に組み合わせる柔軟な支援が求められます。

A 書く動作をしやすくする。

B 書くことの負担を少なくする。

C 書くことにこだわらず、他の手段を組み合わせる。

ヒント② 筆記用具の工夫 ～書く動作をしやくする～

グリップを太くする

握りを太くすると握る力が鉛筆に伝わりやすく、余分な力がいらなくなるので書きやすくなります。太い鉛筆を使う方法と、鉛筆に太いグリップを付ける方法があります。

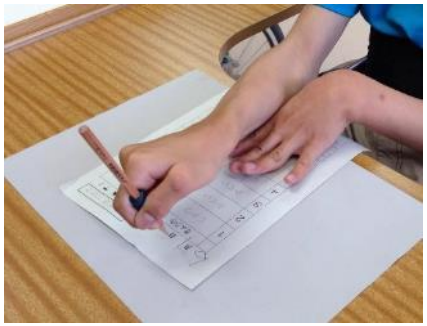
手のひらの空間を埋める

鉛筆を握るときは手のひらと指の間に空間を作る必要があります。力の調整が難しいお子さんはこの空間を作っておくことが難しくなります。何かを握って空間を埋めることで書きやすくなります。市販品もあります。

バインダーで紙を固定

片手だけで字を書いたり消したりしてみてください。紙が動いてやりにくいはずです。利き手でない方の手はとても大切な役目をしています。それを補う工夫が必要です。

すべり止めマットを使う



最近では、字を書くのに適した滑り止めマットも市販されています。特に片麻痺のある子どもには必需品と言えるでしょう。

ヒント③　筆圧の弱さを補う

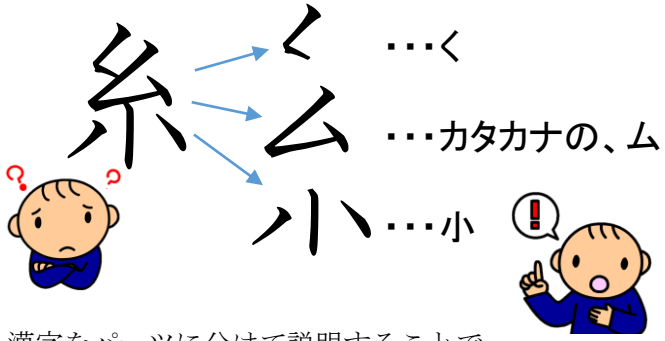
濃い鉛筆や、マーカーを使う

塗り絵など筆圧を強くするトレーニングもありますが、筆圧が弱くても濃い字が書ければよい、という発想もあります。６Bの鉛筆や、マーカーを使うことで筆跡も濃くなります。太いペンは握りやすくなるので字を書きやすくなります。

ヒント④　漢字の形をとらえやすくする

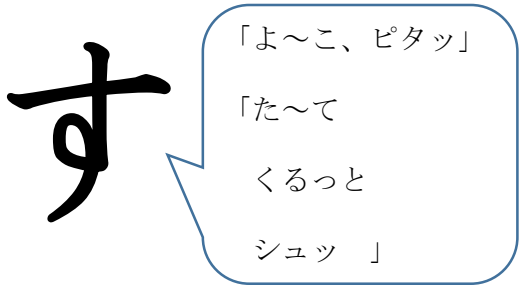
肢体不自由のある子どもの中には図形の処理が苦手で、手本を見て形をとらえたり、まねて書いたりすることが難しい場合があります。

パーツに分ける



漢字をパーツに分けて説明することで、「あ、なるほど」と分かる子どもがいます。

音でイメージを補う



運筆に、言葉をのせて練習することで書きやすくなる子どももいます。

ヒント⑤　書くことにこだわらない学習方法を

通常は、学年が上がると書くことから、考えたり表現したりすることにパワーを傾けられるようになっていきますが、肢体不自由のある子どもでは書くことの負担が減るどころか増える一方です。自分が書いた内容の見直しや、書き直しなど、考えを深める作業を妨げられ、二次的な不利益を生じます。書くことは学習の手段の一つであって、学習の中心ではありません。「書くことができるかどうか」ではなく「流ちょうに書くことができているか」を見るようにしてください。そして手段を柔軟に用意してください。

代筆による支援

頑張って書いているうちに授業が進んでしまう。せっかく書いたノートは復習に使えない・・・
そんな子はいませんか。

PCやタブレット端末の利用

書いたり消したりする負担を軽減し「じっくり考える」「納得いく作文を書く」ことに役立ちます。活用方法は、高松支援学校にご相談下さい。

詳しい情報はこちら

高松支援学校HP「肢体不自由教育ガイドブック」（国語教育）

くもん出版
「こどもえんぴつ」

旭洋鉄工株式会社
「すべりどめシート」

ゴムQ「Qシリーズ
使い方ハンドブック」

香川県立高松支援学校「からだと学びの相談センター」（０８７）８６５－４５００